

遊佐町共同開発米の米日記



6月初旬の稲



伸びた雑草の草刈



稲の葉にくっつくトンボ



田んぼの中に住むタニシ



稲の株の間に溝を作る作溝



7月初旬の稲

7月初旬までの生育状況になります。6月に入ると一本の苗が根元から分かれていき茎が増える分けつ期に入ります。今年は雨が少なかったものの穏やかな日が続き、有効な茎数を順調に確保できました。

分けつにより有効な茎の本数を確保した後、6月下旬ごろより茎の成長から根づくりに移行する中干し・節水管理となります。中干しは田の水をぬき土を固める工程です。稲の根をはらせ倒伏に強くしたり、余分な分けつを止めたりとさまざまな効果があります。上の画像にある作溝は、稲刈りまで根の活力維持のための水管理で重要な作業となります。作溝を作ることにより田んぼ全体に均一に素早く水を送ることができます。

この時期は田んぼ周辺の雑草の生長も早く伸びた雑草は月に一度は草刈りをします。イナゴやカメムシの発生の原因になるの、事前に草刈りをして害虫の発生させにくい環境を作ります。

7月に入り草丈(稲の身長)も50cmこえ稲の葉色も一番濃い緑の時期を過ぎ、綺麗な薄い緑色となりました。穂がでる出穂の時期ですが、平年並か1.2日遅い状況になります。

特別栽培の稲作りとなり、遊佐の田んぼの環境も変わってきています。田んぼの中には生き物が増えそれを餌にする鳥も増えてきています。4月下旬に遊佐に朱鷺が飛来したのは驚きでしたが、7月頭には丹頂鶴も遊佐町の田んぼで確認されました！